

20. NPO法人 明日香の未来を創る会

調査時：稲渕棚田ルネッサンス実行委員会

棚田名	神奈備の郷<稲渕>（かなびのさといなぶち）
所在地	奈良県高市郡明日香村稲渕
百選等の認可	棚田百選
棚田の概要	傾斜7分の1、面積21.5㌖、枚数315枚
保全団体	NPO法人 明日香の未来を創る会
設立年	1995年（平成7年）
沿革	生態系や歴史的景観の保存と稲渕の棚田の新しい担い手を創り出す目的から、棚田ルネッサンス実行委員会を立ち上げて、1996年に棚田オーナー制度を全国で二番目に採用した
代表者	寺西 章
連絡窓口	NPO法人明日香の未来を創る会事務局 〒634-0123 奈良県高市郡明日香村大字稲渕593-1
会員	大字（だいじ）の全戸（58戸）が会員
主要メンバー	山本稔、鈴木洋治（オーナー会会長）、高内百合子
拠点施設等	憩いの館（2000年完成）
ポリシー 又は活動の方向性	委員会は「棚田の保全と発展的利用」および「人と自然の関係を見つめることで人間性の回復というルネッサンスを起こし、新しい文化を発信する」との目的を掲げてきた。しかしスタートから10年以上がたち、担い手の減少や高齢化、世代の断絶等の課題は、もはや稲渕集落内の活動では解決できないという認識のもと、地域全体の未来を切り開こうとNPO法人化し、稲渕に限定せず棚田に限定せず、外からの力を受け入れることで持続可能な未来を描こうとしている。
活動状況	
運営資金	立ち上げ初期は行政の援助があったが、3年目からはオーナー会費のみで運営
広報ツール	http://www.asukamirai.org/pg337.html 。夢耕社がチラシやパンフレット類を作成
協力者	オーナー制度の事務作業は夢耕社が代行。棚田オーナーの会（約80組）
市民交流制度（オーナー制度など）	棚田オーナー制度：1996年～ 畑のオーナー制度：1996年～ 県が買い取った耕作放棄地を村が借り受けてオーナー制度がスタート。提案の中心になったのは当時の役場職員・（故）高内良叡氏
棚田米販売	飯米が主だが、一部はイベントや直販で販売される
特産品開発	委員会としてはやっていないが、地域内に農産加工グループがある
直売所	夢耕社が運営する販売所やレストランが周辺にあるほか、地域内に無人販売所もある
定期的イベント	恋華まつり、蛍のゆうべ、案山子たて、彼岸花まつりなど
地域の状況	
直接支払の状況	直接支払いは受けている（オーナー制度の運営費用には繰り入れていない）
地域おこしグループ等	
後継者対策	
I・U・J・Oターン	Iターンは稲渕では（希望者はあるが）まだ実現していない。奥明日香内には数例あり
ボランティア受入	オーナー制度とは別に景観保全のための草刈りなどがあり、ボランティアを受け入れている
行政の支援	（財）明日香村地域振興公社（あすか夢耕社）が、棚田を含めた各種オーナーやボランティア募集などの事務作業をまとめて行っている。特産品の販売所や加工所の運営もやっており、イベント対応も協力
備考	第3回石井進記念棚田学会賞（平成18年度）2006年